

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°26 ドメーヌ・ル・ブリゾー

生産地方：ロワール

新着ワイン3種類♪

VdF ル・ブリゾー 2015 (白)

2011年以來4年ぶりのブリゾー♪以前クリスチャンが醸造していた時はル・ブリゾーを樽で仕込んでいたが、ナタリーは、個人的に樽で熟成させたワインよりもタンクで熟成させたフレッシュなワインが好みということもあり、2015年は樽を使わずタンクのみで仕込んでいる！彼女が言うには、今回のブリゾーは樽でワインがマスクされていない分、現在の状態でもワインのミネラルリティがダイレクトに表れているとのこと！確かに、芳醇なエキスの中に鋭く厚いミネラルが溶け込んでいる！今回もブリゾーらしい芯の通った味わいは健在だ！

VdF コ・テ・ククール 2015 (赤)

2011年以來4年ぶりのコ・テ・ククール♪前回のCotécoeurと同じキュヴェだが、今回はCôt et Coeur (コーとハート) 文字を切り離し、品種を分かりやすく表現している！2015年は豊作と言っても20 hL/haしか収量が取れていない…。だが、コーにおいては、これでも収量が多い方なのだ！ナタリー曰く、コーの畑はモルティエの区画内にあるが、モルティエの中でも取り分け土壌が肥沃な場所にあるため雑草がいつも絶えず、しかもブドウが晩熟ゆえ最後まできれいな状態で完熟するのが難しいのだそうだ。収量が取れないので一度は伐根も考えたこともあると言うナタリー。だが、今回のように完熟したブドウが収穫できると、何とも言えない魅惑的なワインが出来上がるため、いつも思い留まるそうだ！

VdF レ・モルティエ 2015 (赤)

クリスチャン亡き後ナタリーが単独で仕込む初のレ・モルティエ！ナタリー自身は樽香があまり好みではなく、トップ・キュヴェのこのモルティエも100%タンクで仕込んでいる。今回は除梗したブドウを5ヶ月間ロングマセラシオンしている！ナタリー曰く、マセラシオンの長さはテイスティングによって判断するとのこと。すなわち、マセラシオン期間が3週間過ぎた時点でこまめにテイスティングをし、もしタンニンの収斂味や苦みが前よりも強くなったなら、その時点でデキュヴァージュ。もし前よりもワインが柔らかくなったなら、果皮がうまくワインに溶け込んできていると判断しマセラシオンを続行。そして、味わいに乾いた感じが出きたらその時点でマセラシオンを引き上げ、後はワインが程よくこなれるまで熟成するのだそうだ！ロングマセラシオンで仕上げられたレ・モルティエは、滋味深くもあり、果実が柔らかくもあり、これまたとても魅力的なワインだ！

ミレジム情報 当主ナタリー・ゴビシェールのコメント

2015年は質にも量にも恵まれた当たり年！春は温暖で適度な雨にも恵まれ、ブドウの成長も1週間ほどペースの速い幸先の良いスタートだった。開花も問題なく順調に終え、ブドウの病気も一切なく豊作が期待された。5月終わりまでブドウの成長に勢いがあつたが、6月に入ってから連日夏日が続き、雨も一切降らなくなったため、乾燥により成長に少しブレーキがかかり始めた。強い日差しと雨に恵まれぬ乾燥した気候はそのまま8月の中旬まで続いた結果、ブドウの葉は裏返り、房も小さくコンパクトなまま明らかに水不足の様相を呈してきた。だが、幸いにも8月15日、16日と2日間に渡り計50mmのまとまった雨が降ってくれたおかげでブドウは息を吹き返し、そのまま果汁をしっかりと蓄え完熟したきれいなブドウを収穫することができた！

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

今回はナタリーを追って一路南へ♪北のブリゾーと南のナナを行き来するナタリーは、最近とてもアクティブに動き回るため、なかなかタイミングよくアポが取れない。今回もアポの時点でロワールにいるという情報を聞いて、ロワールの出張スケジュールを組んだのだが、いざロワールに向かうと、彼女はもう南に下っていてすれ違い…。結局ナタリーを追うような形で南に下りた。



写真① ソー・ナットのテレブラン

これはソー・ナットのテレブランの畑。(写真①) いや～やっぱり南は最高！新年からほぼ毎日のように雨が降り続き、どんよりとしている北の天候とは対照的に、南はこの真っ青な青空！ナタリーが言うには、前日に嵐のような豪雨が襲ったそうだが、小石混じりガレルレの土壌は水はけがよく、ごらんの通り水たまりひとつ見当たらない。畑の畝の間に軽く溝ができていますが、これはこの日の早朝に軽くトラクターで畑を鋤いた跡。トラクターの運転はナタリーが行っているが(彼女が運転するのもビックリだが)、それよりも大雨の翌日でもトラクターで作業ができる畑の水はけのよさに驚きだ！

次は、ナタリーの南のカーヴの写真。(写真②) このカーヴ上にナタ

リーの住居があり、家は坂の下に隣接するように建てられていて、カーヴはいわば半地下の状態になっている。彼女はこのカーヴを「ガレージ・カーヴ」と呼んでいるが、普通の家ガレージにしてはものすごく広い！一昨年初めてカーヴを見た時は、この広いスペースにタンクが2つしかなく、とても簡素な印象を持ったが、今は天井に断熱材が取り付けられていたり、両脇にきっちりと醸造タンクが並べられていたり、また、ワインのストックがあったりと、カーヴらしい姿に生まれ変わっている！



写真② 南仏のカーヴ

また彼女の話によると、去年の収穫からほぼ隔週のペースで南と北を行き来しているのだそうだ！実際に彼女の作業ノートを見せてもらったが、確かに頻繁に往復しているのが分かる。とは言っても、南と北は約700 km 離れていて、年に数回しか往復しない私も、最近はとても体力的にしんどいと感じる距離だ。それを隔週でこなす彼女のバイタリティーには素直に感服！ちなみに、この訪問の2日後には彼女はロワールに上がってワインの醸造のチェックと畑の土起こしを行っている！彼女に今年の抱負を聞くと、今年は8月にモルティエの畑にピノドニス、そして2019年にクロ・デ・ロングヴィーニュの畑にシュナンを植え、収量を少しでも増やしたいと力強く語ってくれた！ワイン造りを受け継いで早5年。彼女はヴィニョロンの道を一点の曇りもなく、たくましく突き進んでいる！

(2018.1.9.のドメーヌ突撃訪問より)

※弊社HP「フォト・ギャラリー」より、カラーでサイズの大きい鮮明な写真をぜひご覧くださいませ